



2014年3月 第12巻第3号

### かく語りき—聖人の言葉

「霊的な修練を積むことにより、過去のカルマによる束縛は断ち切られます。しかし、神を悟ることは、神への忘我の愛がなくては成し遂げることはできません」

(ホーリー・マザー シュリー・サーラダー・デーヴィー)

「母親にも父親にも、他の家族や親類にもできないことを、正しい方向に向かう心は果たし、故に人を高みに導くのだ」

(ブッダ)

### 今月の目次

- ・ かく語りき—聖人の言葉
- ・ 2014年4月の予定
- ・ 2014年2月の逗子例会  
スワミー・ヴィヴェーカーナンダ  
生誕152周年祝賀会
- ・ スワミー・ヴィヴェーカーナンダ  
生誕150周年祝賀

ホームレスへのナラ・ナーラーヤナ  
奉仕活動特別プロジェクト

- ・ 2014年1月の逗子例会の講話  
「ホーリー・マザーの母性の特徴」
- ・ 忘れられない物語
- ・ 今月の思想

### 6月の予定

- ・ 生誕日はありません・
- ・ 行事・

6月7日(土) 14:00~16:00

東京例会 講義『バガヴァッド・  
ギーター』(無料)

場所：インド大使館 : 03-3262-2391

6月8日(日)

認定ヨーガ療法士会大阪定期総会  
講話

テーマ「ヴェーダータとヨーガ」

日本ヨーガ・ニケタン関西支部  
(兵庫県西宮市)

6月1日(日)、8日(日)、22日(日)、

29日(日) 14:00~15:30

ハタ・ヨーガ・クラス

場所：新館アネックス

\*体験レッスンもできます。

6月14日(土) 16:30~

シヴァナンダ・ヨーガ・ヴェーダーン  
タ・東京センター講話

シヴァナンダ・ヨーガ東京センター  
講話

詳細：<http://www.sivananda.jp/>

6月15日(日) 10:30~16:30

逗子例会 ブッダ生誕祭

場所：逗子本部本館

午前：スワミー・サッティヤーロカ  
ーナンダジの講話（ラーマクリシュ  
ナ・ミッション・シンガポール支部長）

鈴木法拳上人の講話（日蓮宗僧侶）

午後：朗誦・輪読・サッティヤーロカ  
ーナンダジの講話

6月21日(土)

サットサンガ 福岡県飯塚市

お問い合わせ：小林 090-8624-1145

\*マハーラージは、6月20日~23日に  
逗子協会を不在にします

6月22日(日)

サットサンガ 福岡県福岡市

お問い合わせ：サリ 090-4982-3522

6月27日(金)

ナラ・ナーラーヤナ ホームレスへの  
奉仕活動

現地でのお食事配布など。

お問い合わせ：佐藤 090-6544-9304

6月28日(土)

サットサンガ 東京都三鷹市・沙羅舎

お問い合わせ：Sarasa 片岡  
0422-41-8618

6月29日(日)

シヴァナンダ・ヨーガ・ヴェーダーン  
タ・東京センター記念式典

詳細：<http://www.sivananda.jp/>

### お知らせ

7月19日~21日、高野山にて夏季リト  
リートが行われます。7月4日が申込み  
締め切りですが、その前に定員になり  
ましたら締め切りとなります。

みなさんどうぞご参加ください。

詳しくはヴェーダーンタ協会HP、

又は [shantikaori@yahoo.co.jp](mailto:shantikaori@yahoo.co.jp) に

お問い合わせください。

### 2014年2月の逗子例会

スワミー・ヴィヴェーカーナンダ生  
誕152周年祝賀会





午前6時、スワーミー・メーダサーナンダ（マハーラージ）がマンガラ・アーラティを執り行い、聖典の輪読、聖句詠唱、賛歌朗唱を行いました。朝食の後、いつものようにボランティアのスタッフが生誕祭の準備をお手伝いくださいました。



日本ヴェーダーンタ協会では、世界各地にあるラーマクリシュナ・ミッションのセンターと共にスワーミー・ヴィヴェーカーナンダの生誕150周年祝賀行事を1年にわたり開催していますが、Vishuddha Siddhanta 暦では1月23日（火）がスワーミーの生誕152周年になります。

協会では、2月16日（日）の逗子例会でスワーミーの生誕祝賀会を行いました。当初は逗子本部新館（アネックス）にて執り行う予定でしたが、2日前に降った記録的な大雪が地面にまだたくさん残っており、足下の安全を考慮して急遽本館での開催へと変更になりました。



午前11時過ぎにプージャが始まり、続いてアーラティ、プシュパンジャリ（花の奉獻）が行われました。参加者は、マハーラージから額にペースト状のお香をつけていただきました。また、昼食のプラサードでは、大変有り難いことにインドからいただいてきたタクールのお下がりをお分けいただきました。



休憩をはさんだ後、午後2時45分からマハーラージが「スワミー・ヴィヴェーカーナンダとシュリー・ラーマクリシュナ」をテーマに講話を行いました。（この講話は次号以降のニュースレターに掲載する予定です。）スワミーの高い霊性や、それを見抜いていたシュリー・ラーマクリシュナとスワミーの関係などについて、これまで聞いたことのないようなエピソードも披露され、非常に興味深いお話でした。



その後、数名の信者さんのリードにより参加者全員で賛歌を歌い、続いて瞑想、午後4時半過ぎに皆で茶菓をいただきました。参加者の一部は夕拝にも

参加しました。

## スワミー・ヴィヴェーカーナンダ生誕 150 周年祝賀 ホームレスへのナラ・ナーラーヤナ奉仕活動特別プロジェクト

日本ヴェーダーンタ協会によるスワミー・ヴィヴェーカーナンダ生誕 150 周年祝賀年間行事の一環として、2月21日（金）、ホームレスの方々へのナラ・ナーラーヤナ奉仕活動特別プロジェクトが横浜・寿町の寿公園で行われました。協会はこちらでの毎月の炊き出しに参加していますが、今回の協会の特別プロジェクトでは、炊き出しに加えて靴下と下着のセット 350 組を配りました。

マハーラージが以前言ったことですが、「礼拝には二通りあります。寺院に祭壇を作り神を礼拝することと、貧しい人々や病気の人々、困っている人々の中に生きた神を見て礼拝することです。こうした人々の中にいらっしゃる神様が、もしお腹がすいていれば食べ物を差し上げ、衣類がないのなら衣類をお渡しし、病気であれば治療をして差し上げるのです。人は元々利己的ですが、他者に仕えようとハートが浄められ無私になれるのです。スワミー・ヴィヴェーカーナンダは『無私神である』と仰いました。ラーマクリシュナ僧団の病院では、病気の人々の中に

いる神様を礼拝するのだと考えて、毎日彼らのお世話をしています」

スワミー・ヴィヴェーカーナンダは次のように言っています。

「他者に徳のある行いをしたときのみ、人は自身の徳を得る。自由意志に基づいて人類や自然に捧げる働きだけが、束縛的な執着を一切もたらさない」

「昼も夜も絶え間なく、一人一人が祈ろう。貧困や偽善売教、暴政から逃れる術もなく虐げられている数多（あまた）の人々のために。日夜祈るのだ。私は、上流階級の人々や金持ちよりも、虐げられた人々のために宗教を説きたい。私は形而上学者でも哲学者でもないし、まして聖人でもない。私は貧しい。そして貧しい人々を愛しているのだ」

スワミーが述べたこれらの奉仕の考えは、この特別な機会に実践されました。



2014年1月の豆子例会

ホーリー・マザー シュリー・サーラダー・デーヴィー生誕祝賀会

「ホーリー・マザーの母性の特徴」

スワミー・メーダサーナンダの講話

「シュリー・サーラダー・デーヴィー

の力を通して、私は人々を自由にするという仕事を成し遂げていく」シュリー・ラーマクリシュナはホーリー・マザーについてこのように言いました。この言葉によって、ホーリー・マザーシュリー・サーラダー・デーヴィーがどれほど偉大であるか、私たちにも分かり始めます。実のところ、シュリー・ラーマクリシュナ以外に、サーラダー・デーヴィーの力に気付いていた人はいませんでした。家住者も僧院の弟子らも皆、マザーの偉大さが全く分からなかったと言っており、ラーマクリシュナから聞いて初めて気付くようになったのです。ラーマクリシュナはよく、「ドッキネッショルのカーリー寺院にお住まいの母神と、寺院の建物の一つであるナハバト（音楽塔）の1階の小部屋に住むサーラダー・デーヴィーの間には、何の違いもない」と仰っていました。

ラーマクリシュナやサーラダー・デーヴィー、ヴィヴェーカーナンダのような偉大な魂を、私たちが理解するのは難しいものです。神様は無限ですが、このような偉大な魂らも、無限を悟って初めて無限となったのです。有限の次元に住む私たちが、どうして無限を理解できるのでしょうか。このように、悟りの魂を他者が理解するのは難しく、さらに誤解の生じることも多いものです。例えば、シュリー・ラーマクリシュナはよく変人だと言われ、中には「狂

人」呼ばわりする人もいました。また、ホーリー・マザーが姪のラドゥなどの親戚の面倒を見てやっているのを見て、マザーには執着がたくさんあると言った人もいます。これに対してマザーはこう言われました。「ええ、私自身がマザーですから」



これらの偉大な人々は、普通の人と同様に食べ、眠り、怒りを露わにしたりしますが、やはり普通の人とは非常に違います。私たちがホーリー・マザーなどについて話をしようとしたところで、限られた理解から話すことしかできないのです。そして、その限られた理解力も実は彼らから授かったものです。私たちがマザーについて得ているわずかの理解もマザー御自身がくださったものなのです。例えば、マザーについて話している時に私たちが何か間違えても、それもマザーの責任と言えます。

このような理解を踏まえて今日は、「ホーリー・マザーの母としての独自性」、言い換えると「ホーリー・マザー

の母性の特徴」についてお話ししたい  
と思います。



## 母性愛の要素

この世のあらゆる愛の中で母の愛が最も偉大であると言われていますが、全くその通りだと思います。愛には、父の愛、兄弟の愛、妻の愛、友の愛などいろいろありますが、これら世俗の愛の中で母の愛が最も大きいことは、子育てのために母親がどれほどの犠牲を払うかを見れば分かります。子供は母親自身の肉体から産まれたものであり、子供のために費やす時間と労力、しつけや気遣いなどを考えただけでも、母親が多くを捧げていることは明かです。また、子供に対する気持ちや願いがどれほど大きいか考えてみてください。子供がまだお腹の中にいる時ですら、母親は子供に対して想像を膨らませいろいろなことを願います。子供の人生の最後の最後まで、子供の幸福のために多くを注ぎます。私自身、僧侶となった後でさえ、母の目を見るとそこに私への深い愛情があるのを感じ頭

の下がる思いでした。母は私を愛していると言葉には出しませんでした、母を一目見るだけで私への愛の大きさが分かったものです。

世俗の愛で最も偉大であると認められているこの母の愛を、客観的に分析してよく観察すれば、この愛にはもっと高い愛の形が存在するに違いないと分かります。が、普通の母の愛と区別して、より次元の高い母の愛を指す言葉が作られない限り、これを認識するのは難しいでしょう。

まず、母の愛の対象は自分の子供であり他人の子供ではありません。どんな犠牲もいとわないものの、それは自分の子供のためだけです。これは、自分の肉体から生まれた子供だからです。一般に、このような愛は強い執着を伴います。執着の表れのよい例が、「愛する者を支配したい」という欲求です。さらに、愛する者が何か悪いことをしても見て見ぬふりをします。このような執着は、正しい考えや行いを妨げる可能性があります。

母親は子供を支配しがります。この点は、文化的に西洋と東洋で多少違うところかもしれませんが。欧米の文化では、子供は、成人したら自分の人生を送るよう親元から離れるよう促されるのが普通だと思います。アジアでは親子が一緒に暮らす時期がもっと長い傾

向にあり、子供が結婚した後でさえ母親は子供や家庭を支配しようとするのです。これは息子にとっては問題の種類となります。妻と母のどちらの気に入るようにすればよいのか、という問題で、これはインドにも日本にも見られます。母親は母としての義務から解放されたくないのです。

自分の子供が悪いことをしても母親はそれを認めないことがあります。サンスクリットに「snehandha」という語がありますが、これは愛や執着で目が見えない状態を言います。この典型的な例が『マハーバーラタ』に出てきます。ドゥリタラーシュトラ王は邪悪な息子ドゥルヨーダナを溺愛するあまり、息子が悪事を働くのを止めることができませんでした。子供への執着心から子供の悪い行いを見過ごしたり知らないふりをしたりするのは、母親にもあります。子供にとっては、学校や仕事のために離れた場所に行くのが一番良いと思われる場合でも、母親は強く反対するものです。さらに、母親の中には、自分が年老いたら子供に面倒を見てもらうのを期待する人もいます。

母親は子供の幸福を願いますが、霊的幸福を願うことはあまりありません。人生の成功や結婚、子供を持つこと、大きな収入を得ることなどを望むことがほとんどで、子供の霊的幸福に一番関心があるという母親はほとんどいま

せん。もし息子が結婚を望まず僧侶になりたいと言えば、ひどく反対されません。両親共に信者であったとしても、こう言うのです。「僧侶には他のうちの子供がなればよい。うちの息子には結婚してもらわなくては！」このように、母親が子供の幸福を願うのは物質的な幸福である場合がほとんどで、今世を超えた幸福を願うことは、まず、ないものです。

子供が問題を抱えたとき、それを解決する力がどれほど母親にあるのか考えてみましょう。子供に病気や障害の問題が生じれば、母親の力には限りがあることが分かります。必死に祈りを捧げることはできても、解決してやれる力はありません。また、もし子供が3人いてそのうちの一人が良い収入を得ていれば、母親はその子をひいきするでしょう。成績のいい子、何かの才能がある子がいれば、その子を褒めてばかりで、他の子供にも良い所があるのを忘れがちです。自分の子供たちでさえ差別するのです。

### ホーリー・マザーの普遍の愛

このような点のすべてにおいてホーリー・マザーは異なります。まず、母親の愛の対象が自分の子供中心である点についてですが、マザーの愛の対象はすべての人でした。「それはそうだろう。ホーリー・マザーには子供がいな



かったのだから執着のしようがなかったのだ」と思うかもしれません。しかし、養子を取った場合でもこのような執着は生まれますし、子供がいなくても犬や猫などのペットに執着することがあります。それが私たちの性質なのです。多くの人がそうであるように、執着しやすい性質だと執着の対象が現れるのです。たとえ何もなくても、執着心が何かを求めるのです。そうではありませんか。

次に、ホーリー・マザーの愛は、家族や内輪の者に限定されておらず、あらゆる人に対し平等に無条件に愛を捧げました。これは大変重要なことです。このような母性を現すのに、結婚しているかとか子供がいるかとかは関係ありません。すべての女性にはこのような母性があるのです。私の経験から言って、協会の中でも外でも、助けが必要な時に救いの手を差し伸べてくれるのは大概女性です。女性は、困っている人がいればすぐに思いやりを示すので、私は、すべての女性の中にマザーを見ます。

例えば、私があるところに向かっていて道が分からず、通りで誰に尋ねようかと考えているとします。気付いて「お困りですか」と声を掛けてくれるのは、決まって女性です。日本に来て間もない頃、近所のバス停でバスを待っていると、ふと、お札しか持っておらず小

銭がないことに気付きました。周りで待っている人に、バスの運転手さんがお札を崩してくれるかどうか尋ねたら、してもらえないと言われました。するとある女性が、「大丈夫ですよ、私が代わりに払いましょう」と言ったのです。私は「ありがとうございます」とお札を言いました。当時は、私が何とか話せた日本語はそれだけでした。バスが駅前のバス停で止まると、私は急いでお金を崩しに行き、立て替えてもらったお金をその女性に払おうとしました。お金は崩せたのですが、女性はお金を受け取ろうとしませんでした。

女性が、誰をも自分の子供と見なして接するこのような態度を養えば、普通の母性のイメージを現すことができ、自分を高めることになるのです。ホーリー・マザーの生涯がこれを示しています。自分の子供として接した相手と、自分自身の両方を高めるのです。



## 差別のない愛

先ほども言いましたが、ホーリー・マ

ザーの愛は普遍的で、しかも人間だけに限られていたのではありません。ある時、信者に「マザーは、ここにいるアリのお母さんでもあるのですか」と尋ねられ、マザーは「その通りです」と仰いました。マザーは母神の化身であり、神様が母となってこの世に姿を現したのです。

ある若者が、イニシエーションを受けている最中に少し動揺しているようでした。ホーリー・マザーは若者に、シュリー・ラーマクリシュナがあなたのイシュタ（自身の選んだ特定の神）ですよ、と仰いました。すると若者は、イニシエーションを授けてくださったマザーこそが自分のグルであり理想であると言い張りました。マザーが「私はあなたの母に過ぎないのですよ」と仰ると、若者は「私の母は遠くの村にいます」と言い張りました。するとマザーは、「息子よ、私をご覧ください」と仰り、その途端、若者は自分の生みの母が目の前に座っているビジョンを得ました。若者はホーリー・マザーの前にひれ伏して、反論するのを止めました。この信者は、後に僧侶になりました。

ホーリー・マザーの愛には一切差別がありませんでした。先ほどお話しした通り、普通の母親は、才能のある子、頭のいい子をひいきしたりすることがありますが、ホーリー・マザーの場合

そのようなひいきや差別は一切ありませんでした。聖人も罪人も、富者も貧者も一切区別しませんでした。例えば、著名人が家に来たらどうしますか。私たちは、そういう客を篤くもてなそうと努力するでしょう。では、著名人ではなくその人の遣いがメッセージや供物を届けに来たらどうでしょうか。普通、遣いの者に対してその主人と同等の気遣いをするのではないでしょう。主人と召使には、もてなされ方に違いがあるものです。しかし、ホーリー・マザーはそのような区別や差別をすることが一切ありませんでした。

インドでは当時、カーストの区別や宗教的偏見が著しく、例えば、高いカーストのヒンドゥー教徒の家にイスラム教徒が入ったりすれば強い非難を浴びせられることがありました。ホーリー・マザーはブラーミンのカーストに属していましたから、特にそうでした。祝祭などで食事が振る舞われる折に、村のマザーの家に、ある貧しいイスラム教徒が来ることがあったのですが、マザーはその場にいる親類の誰かにその人に食事を出すようお願いしていました。ある時マザーの姪のナリニが、イスラム教徒に触れないという決まりに従うよう細心の注意を払い、この人に向かって食べ物を投げて渡しました。実際、当時の社会習慣では、これは珍しいことではありませんでした。マザーはこれを見て不快感を表し、こう言

いました。「人に対してそのように食べ物  
を渡したら、食事をして幸福を得る  
ことができるでしょうか。人にきちんと  
食べ物を出すことができないのなら、  
私に言いなさい。私がやりますから」  
そう言うと、マザーは自らこのイスラ  
ム教徒に非常に丁寧に食べ物を渡し  
ました。

また、この当時インドはイギリスの支  
配下にあり、イギリス人はインド人  
に対し搾取、投獄、拷問など様々な不法  
行為を働いていたため、イギリス人  
に対する大きな軋轢が生じていました。  
当然、インドの民族主義者とイギリス  
人の間には多くの争いがあったのです  
が、マザーは、この問題を知らされた  
時、他の人とは全く違う態度を取りま  
した。「あなたがたと彼らは争っている  
かもしれませんが、彼らは私の子供で  
すから」ほとんど教育も受けていない  
村の女性が、偏見や憎悪、内紛に超然  
としていたのです。マザーはこうして  
人々の気持ちを引き上げたのです。マ  
ザーは、非常に厳しく伝統的な社会慣  
習の中に生まれ、育てられたのに、こ  
れは驚くべきことではないでしょうか。

## 子供たちの霊的幸福

マザーは母親として子供たちのため  
に、世俗の世界での幸福を考えていた  
だけでなく、常に霊的幸福も考えてい  
ました。ここがマザーの特に素晴らし

い点です。どのような物質的幸福にも  
必ず終わりが来るが霊的幸福は永続す  
るのを知っていました。マザーはでき  
る限り現実的に信者の物質的幸福を気  
遣っていましたが、常にその人の霊的  
幸福に対してさらに気を配っていまし  
た。

プラーナ文献の中に、マダラサ女王が  
王子を次々と産む話があります。子供  
が生まれると、母親はゆりかごを揺ら  
しながら子守歌を歌うことがよくあり  
ます。マダラサ女王は、こう歌いまし  
た。「純粹になりなさい、叡智を得な  
さい、マーヤーから自由になりなさい  
( Suddha-asi Buddha-asi  
Niranjana-asi  
Samsara-maya-parivarjita-asi)」よい  
教育を受けなさいとか、いい仕事に就  
きなさい、お金を稼ぎなさい、よい生  
活をしなさい、とは歌いませんでした。  
サムスカーラやマーヤーから解放され  
て自由になれ (moksha-mukti)、と歌っ  
たのです。マダラサは、息子達を賢者  
にするよう歌ったのです。ヒンドゥー  
聖典ではこれが母親たることの概念で  
す。

## マザーのアドバイスと守護

信者の中には、結婚の是非に確信が持  
てず「結婚すべきでしょうか」とマザ  
ーに聞く人がいました。マザーは、「結  
婚はおよしなさい。その方が安眠でき

ますよ」と答えたものでした。これは私の意見ではなくホーリー・マザーの意見ですから、気にしないでください。もちろん、マザーの真意は、結婚しない方が霊的により豊かな生活を送る自由があるということで、結婚している家住者が霊的生活を送ることができないと言っているわけではありません。結婚を望む信者に対しては、それも道であるとマザーは認めており、結婚しない方がいいと言ったのは、結婚したくないと考えている人々に放棄の道を勧めるためでした。独身の信者の方が、他者の支援をより行いやすいものです。

たいていの母親は、子供を助けてやれる程度に限りがありますが、ホーリー・マザーは最も深刻な問題が生じた時でも助けてやることができました。興味深い例をお話ししましょう。ジャイランバーティの近くのある村に、ラーマクリシュナ・ミッションの小さな支部があります。数人の僧侶が住んでいます。昔、ここにオリッサ出身のある有名な占星術師が来ました。僧侶らの中にその人が有名な占星術師であるのを知っている者がいて、ある兄弟僧の占星図を差し出して読んでもらおうとしました。すると占星術師はひどく腹を立てました。「死んだ人間の占星図を見せるとは、何たることだ」「いえ、違います。彼は今ここに住んでいる僧です」僧侶らは占星術師の反応に当惑しました。

実はこの数年前、ホーリー・マザーが件（くだん）の僧侶をジャイランバーティに呼んで、今すぐベルル・マトに行ってサンニャーシンになるイニシエーションを受けるよう言いました。このようなイニシエーションは、シュリー・ラーマクリシュナの生誕日など特別な時にだけ行うのが習わしでした。この僧侶がホーリー・マザーの伝言を持ってベルルに着いた時、上級僧は、イニシエーションにふさわしい時ではないがホーリー・マザーのお言葉で決まることだから、と言ってイニシエーションが準備されました。ホーリー・マザーは理由を伝えなかったのも、僧侶らは皆、マザーがなぜこのようなイニシエーションを指示したのか、その後も気になっていました。それから数年経って占星術師が来た時に、その理由が分かったのです。その僧侶の占星図には、ちょうどサンニャーシンのイニシエーションを受けた日辺りに死ぬことが示されていたのです。マザーだけにはそれが分かっていたのです。だから、サンニャーシンのイニシエーションを受けることでカルマが軽くなることを知っていて、ただちに最後の誓いをさせたのです。もちろんマザーはその占星図を見たことはなく、ただ黙って自分の子供を守ったのです。

それだけではありません。マザーは今も私たちを守ってくださいます。

マザーはこう仰いました。「我が子よ、困った時にはあなたを守る母がいることを覚えておきなさい」これは単なる口約束ではありません。そんな薄っぺらな約束ではなく、マザーはそれを実行できると完全に分かっていらっしやり、実際にそうしてくださっているのです。助けが必要な時に本当に助けが来た例はいくらでもあります。このようにホーリー・マザーの母性は極めて特別なものなのです。

## マザーのメッセージ

ホーリー・マザーの生涯から私たちが学べることは何でしょうか。普通の女性、普通の母親の役に立つ教えは何でしょうか。一つ目は、結婚しているかいないか、子供がいるかいないかに関わらず、女性は母性を育むことができます。二つ目に、女性はより大きな母性を持つよう心がける、つまり、自分の子供だけでなく他の子供にも母として同じように振る舞うよう心がけることです。三つ目に、執着することなく愛すること。四つ目に、子供のいる女性に、物質的幸福も良いけれど子供の霊的幸福を祈り育む方がはるかに良いことだと分かってもらうことです。

母性はすべての女性に備わっている性質ですが、女性には父性の要素もいくらかあります。同様に、すべての男性にも母性の要素が少しはあるのです。

ですから、男性も母性の要素を育んだ方が良いでしょう。誰にとっても、父親的な面と母親的な面を兼ね備えることは良いものです。男性が自らの中にある母性の感覚を養うと、他者をもつと気遣うようになれます。この点は、シュリー・ラーマクリシュナに見ることができます。信者はよく、シュリー・ラーマクリシュナを自分の母親でもあると考えていました。ですから、母性を育むのは女性だけでなく男性にも必要です。そうすれば、人間関係ははるかに良くなり社会により良く奉仕することができるのです。

## 忘れられない物語

**アナンシがこの世の叡智のすべてを独り占めしようとたくらむ**

昔々、アナンシという蜘蛛がこの世の叡智すべてを大きな壺に蓄えました。天空神ニャメがアナンシに壺を与え、それを世の人々と共有するよう指示していたのです。

アナンシは毎日壺の中をのぞき込んでさまざまなことを学びました。壺は素晴らしい知恵と技能に溢れていました。「叡智の宝をみんなと分かち合うことなどしないで、全部自分のためにとっておこう」と、アナンシに欲張った考えが浮かびました。

そこでアナンシは、高い木のでっぺんに叡智の壺を隠すことにしました。植物のつるを集めて丈夫なひもを作り、壺の周りにひもの片端を巡らせてしっかり結ぶと、もう一方の端を自分の腰に結び付け、体の前に壺を吊るしました。そして木を登り始めましたが、叡智の壺が振り子のように揺れ続け、お腹に当たって邪魔になったので、登るのが大変でした。

アナンシの息子は、父親が苦心して木に登るのを興味深く眺めていましたが、ついに口を開いて、「背中に壺を背負ったら、もっと簡単に木に登れるよ」と言いました。アナンシは、今度は背中に壺を背負って木を登り続けました。さっきよりずっと楽でした。木のでっぺんにたどり着いた途端、アナンシは怒り出しました。「ちょっと常識のある若いやつの方が私より分かっているじゃないか。しかも私には叡智の壺があるというのに」

アナンシは怒って壺を投げ落とししました。壺は壊れ、叡智のかけらが四方八方に飛び散りました。人々は、そこかしこに散らばったかけらを見つけ、欲しければそのかけらを家族や友人のために持ち帰ることもできました。こういうわけで、今日誰もこの世の叡智を全て独り占めすることができないのです。人々はどこにいても叡智のかけらを分かち合い、いつでも知恵を出し

合うことができるのです。

(アシャンティ (ガーナ) の民話)

## 今月の思想

「真実を友人として受け入れる術 (すべ) を失った者にのみ、真実は征服者としてやって来る」

(ラビンドラナート・タゴール)

発行：日本ヴェーダーンタ協会

249-0001 神奈川県逗子市久木 4-18-1

Tel: 046-873-0428

Fax: 046-873-0592

Website: <http://www.vedanta.jp>

Email: [info@vedanta.jp](mailto:info@vedanta.jp)